

## 発盛鉱山

八峰白神ジオパークでは、発盛鉱山の跡地（現在の中央公園、中浜海岸など）を地域の見どころとして保全・活用しています。町の経済だけでなく、教育や文化にも影響を与えた発盛鉱山の遺構を巡ることで町の歴史を学ぶことが出来ます。



榑海岸で銀を発見した工藤甚三郎の記念碑

発盛鉱山は明治21年（1888）から銀が採掘され、経営者を変えながらも昭和の終わりごろまで町の主要な産業として栄えていました。明治41年（1908）ころが産銀量の最盛期で、単一鉱山の産銀量としては日本一でした。当時は2千人を超え、作業員が働いていたといえます。その後、銀を掘りつくした後も銅精錬などを続け、平成2

年（1990）まで稼働していました。

また、かつて八峰町には発盛鉱山の他にも「八森銀山」「八森油田」「小入川炭鉱」などが存在していました。

## 遺構の紹介

## ○八峰町中央公園

現在の中央公園は、発盛鉱山において露天掘りを行っていた場所でした。その後、公園が造成され現在はバスケットコートや公衆トイレが整備されています。また、発盛鉱山の歴史を伝える場所として、鉱山のシンボルであった大煙突のモニュメントや説明看板が設置されています。

## ○海岸の黒い砂

八森の中浜海岸には黒い砂浜が広がっています。この黒い砂は、泊川河口から真瀬川河口付近まで続いています。黒い砂は、一見すると砂鉄のようですが、磁石にはくっつきません。実は、黒い砂は鉱滓（カラミ）で、成分的にはガラスに近いものになります。この砂は、当時操業し

ていた発盛鉱山の溶鉱炉で金属を取り出し、その残りがすに水を吹き付けて細かく砕き、消石灰と混ぜながら海に捨てたものが海岸に広がっているのです。

## ○カラミレンガ

発盛鉱山跡地の一面には重厚なレンガ塀が現存しています。これはカラミレンガと呼ばれるレンガを積み重ねて造ったものです。環境への配慮と資源の有効活用のため、前述のカラミから開発された商品でした。一般的なコンクリートのブロックなどに比べ、カラミレンガは黒光りしてずっしりと重いのが特徴です。そのため、カラミレンガは町内で塀や住宅の基礎などにも使用されました。



発盛鉱山跡地のカラミレンガの塀

## ○榑銀山神社

山神社は明治41年に建立され、危険が伴う鉱山での安全が祈願されました。また、神社の敷地内には明治21年に八峰町の榑海岸で銀鉱石を発見した工藤甚三郎の記念碑があります。

## 古い資料・写真を活用してみませんか？

八峰白神ジオパークでは、発盛鉱山の歴史を産業遺産として後世に伝えることを目的に、資料や写真を募集しています。資料は鉱石や当時使われていた道具なども含みます。ご自宅に眠っている宝物を活用してみませんか？ご提供いただいた資料は展示や町歩きツアーなどに使用させていただきます。詳しくは八峰白神ジオパーク推進協議会（☎77・3086）までお問い合わせください。

皆様のご協力をお願い申し上げます。

八峰白神ジオパーク推進協議会

地域おこし協力隊 三輪拓磨

〒018-2632

秋田県山本郡八峰町八森字三十釜一四四一

ぶなっくランド内

TEL 0185-1771-3086